

分科会名	第1B分科会 研究課題「教育課程に関する課題」
研究主題	「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて ～学校内外の人的・物的な資源を活用するための教頭の役割～
提言者	所属：神埼地区教頭会 学校名 吉野ヶ里町立三田川中学校 氏名：山領 信博
紙 面 協 議 の ま と め	<p>【各校で実践を通しての所感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教頭として、教育課程のマネジメントにあたって、PDCAサイクルのC（チェック）とA（改善）が重要であると思った。 ・社会に開かれた教育課程を実現するために、教頭が教職員と地域人材をつなぐこと、人材バンクなどを整備することが必要であると思った。 ・PTA活動の内容を見直し、教職員と保護者をつないだ教育課程の開発を考えると更に広がりが出るように思う。 ・自校の現状を見ると、学校内外の人材・物的資源の活用において、学年により偏りがあるように思えた。 ・人材発掘に終わらず、発掘した人材と人材をつないで、教育実践をしていくような取り組みも必要だろう。 ・教頭として新たに赴任した学校となると、その学校の人材・物的資源が見えにくい。これが引き継がれるような仕組みが大切だと感じる。 ・地域人材を活用した教育活動では、教頭が窓口となるとスムーズにいくことも多い。学年任せにならぬよう、計画性をもって教育課程の具体化、実践化を図っていきたい。 ・人材バンクはもちろんであるが、連絡体制の構築やそういった方が、日頃気軽に学校に集まれるような場が作れるとよいと思った。 ・活動ありきではなく、子ども達が自らの地域を知る、良くしていく、といった意識を持たせて活動を行っていくことが大切である。教職員がそういう意識をもつことが、「社会に開かれた教育課程」の第一歩になると考える。 ・そもそも教育課程を保護者や地域にどの程度に発信・公開しているのかと考えた。保護者や地域に向けた学校の教育課程の示し方も考えたい。
研 究 部 長	<p>令和元年度から神埼地区教頭会では、「社会に開かれた教育課程」のテーマのもと、人材・物的資源の更なる活用を図る教育活動の実践に取り組んでいる。研究実践1年目となる令和元年度は、教員の教育課程に関する意識調査を行うことから始めた。意識調査を行うことが、まずは教頭として「社会に開かれた教育課程とは何か」を問うものになったと考えている。神埼地区の教頭各々が、共通意識をもって各校で実践に向かうことで、地区全体の教育活動の活性化につながったと考えている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が学校教育に立ちはだかり、これまでの教育活動を大きく見直したり、変更したりせざるを得ない状況になっている。研究のスタートに思い描いていた見通しに対する実践が困難になった。今後の研究の進め方を検討していくにあたり重い課題として残る。</p> <p style="text-align: right;">(神崎市立神埼小学校 平山 忠直)</p>